

高品質がテーマです。

ICOM

取扱説明書

144MHz FM TRANSCEIVER

**IC-2G**



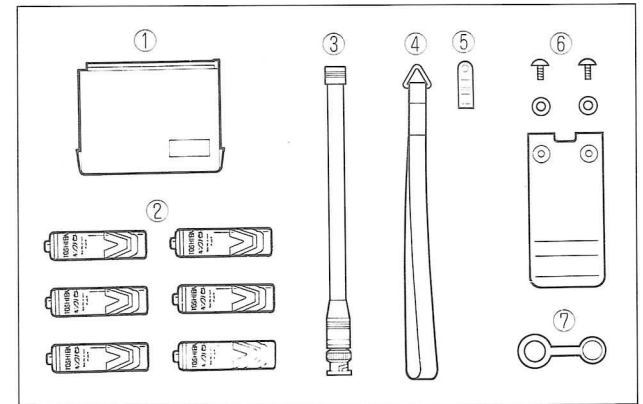
この度はIC-2Gをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
でございます。

本機は、IC-2Nおよびμ(マイクロ)シリーズでご好評をいただいたV・UHF帯ハンディトランシーバーを受け継いで、さらに高性能、簡単操作にしたFMトランシーバーです。

144MHz帯では最高のハイパワー出力と、パワーセーブ回路を内蔵した低消費電力を実現させています。

本機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みくださるようお願いいたします。

## 付属品



- ① バッテリーパック (BP-4) .....1
  - ② 乾電池 (SUM-3) .....6
  - ③ ヘリカルアンテナ .....1
  - ④ ハンドストラップ .....1
  - ⑤ ストラップ金具 .....1
  - ⑥ ベルトサスペンダー  
(ビス×2・ナイロンワッシャー×2) .....1
  - ⑦ 防水キャップ .....1
- 取扱説明書  
愛用者カード  
保証書

ご使用前に	3
付属品の取り扱いについて	4
1. バッテリーパック	4
2. ハンドストラップの取り付け方	5
3. ベルトサスペンダーの取り付け方	5
<b>1. 特長</b>	6
<b>2. オペレーションモードについて</b>	7
<b>3. 各部の名称と機能</b>	8
3-1 前面および側面操作部	8
3-2 上面操作部(VFOモード時の動作)	10
3-3 上面操作部(MEMORYモード時の動作)	11
3-4 LCD(液晶)ディスプレイパネル	12
<b>4. 運用方法</b>	13
4-1 準備	13
4-2 周波数の設定	13
4-3 受信のしかた	15
4-4 送信のしかた	16
4-5 メモリーの使い方	17
4-6 スキャンのしかた	19
4-7 コールチャンネルについて	21
4-8 ビープ音について	21
4-9 トーンスケルチュユニットについて	22
<b>5. SETモード</b>	23
SETモードの操作手順	23
5-1 TS(チューニングステップ)の設定	24
5-2 A/b(プログラムスキャン範囲)の設定	24
5-3 オートパワーセーブの設定	25
5-4 TO(トーン周波数)の設定	25
<b>6. バッテリーパックについて</b>	26
6-1 乾電池について	26
6-2 NiCd電池について	27
<b>7. 保守</b>	28
7-1 リセットについて	28
7-2 バックアップ電池について	28
<b>8. 免許の申請について</b>	29
<b>9. JARL制定144MHz帯について</b>	30
<b>10. トラブルシューティング</b>	31
<b>11. 定格</b>	32

ご注意

●本機の電源には、指定のバッテリーパックをご使用ください。

●むやみに本機のカバーを取りはずし、コアやトリマーなどにさわらないようにしてください。



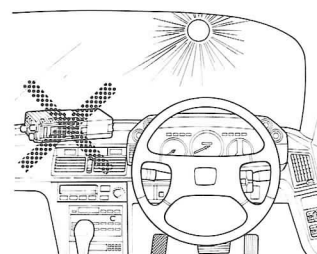
●本機にホコリや汚れなどが付着した場合は、乾いたやわらかい布でふいてください。シンナーやベンジンなどの有機溶剤を用いないでください。

●本機を長期間使用しないときは、バッテリーパック内の乾電池は取り除いておいてください。



発熱について

本機をHIGHパワーで長時間送信しますと、放熱部の温度が高くなりますが、異常ではありません。



本機を、車のダッシュボードの上など、直射日光の当たる所に長時間放置しますと、温度が上昇し、本機に悪影響を与えることがありますのでご注意ください。

故障のときは

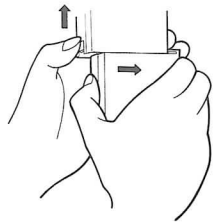
商品に万一不具合な点があったり、故障が生じたときは、必要な事項を記入した保証書と、具体的な症状を明記のうえ、お買い上げの販売店もしくは弊社サービスステーションへご持参ください。なお、保証規定につきましては、保証書をよくお読みください。

## 1. バッテリーパック

※電池の寿命などの詳しい説明は27ページをご覧ください。

本機はバッテリーパックとして、BP-4(乾電池)を付属しています。電源用バッテリーとして、添付のオプション一覧表のとおり、NiCdバッテリーパックが各種ありますのでご利用ください。

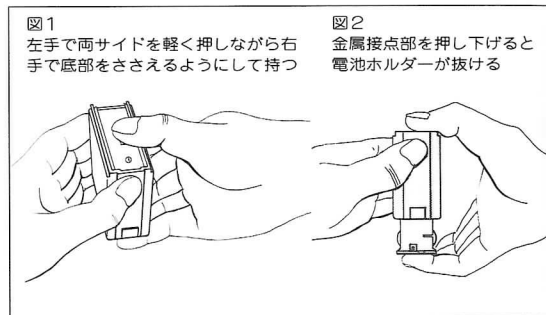
### (1) バッテリーパックのはずし方



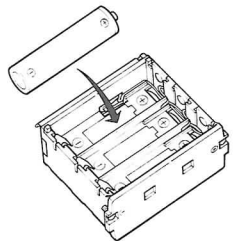
バッテリーパックをはずすときは、本体側面のリリース(RELEASE)ボタンを親指で上に押しながら、バッテリーパックを右側にスライドさせます。

### (2) バッテリーパックの開け方

左手で両サイドを固定し、右手で底部をささえるようにします。次に、接点部を押し下げると、電池ホルダー部を抜くことができます。



### (3) 電池のセット方法



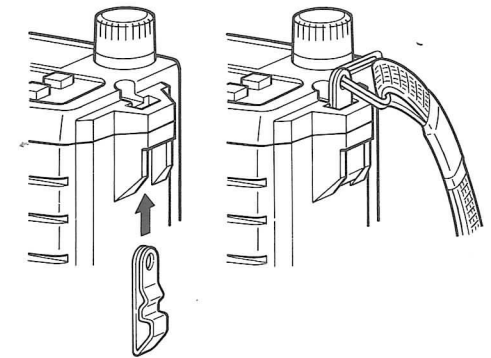
電池ホルダーには、片面3ヶづつ(合計6本)の単三乾電池がセットできます。電池をセットするときは、電池ホルダーの刻印に従って行ってください。

### (4) バッテリーパックの閉じ方

電池がセットできたら、電池ホルダーをもとどおりにケースに納めてください。  
なお、出荷時には乾電池はセットされていません。

## 2. ハンドストラップの取り付け方

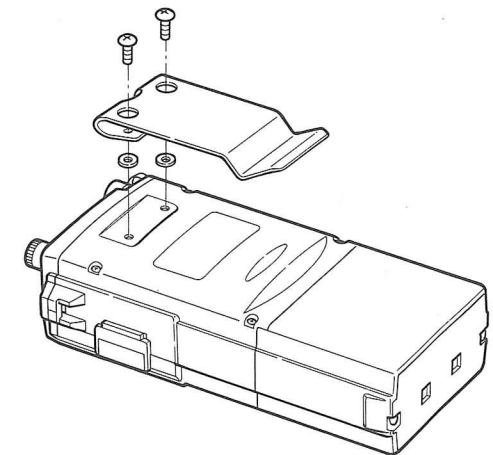
下図のように、本体右側面の取り付け部にストラップ金具を差し込みます。  
次に、ハンドストラップ先端の金具(パネ)を、ストラップ金具の穴に回しながら押し込んでください。



## 3. ベルトサスペンダーの取り付け方

※取り付け時は、本体ネジ穴のホールプッシュを取り除いてください。

下図のように、本体後面部に付属のベルトサスペンダーを取り付け、着衣のベルトなどにかけますと、持ち運びがいっそう楽になります。



# 1. 特長

## ●多彩なスキャン機能

メモリーチャンネルを順番にサーチするメモリスキャン、指定した周波数範囲をサーチするプログラムスキャン機能を装備しました。なお、メモリスキャン時にサーチする必要のないチャンネルをスキップする、メモリスキップスキャン機能を有しています。

## ●スケルチモニター機能

ノイズスケルチやトーンスケルチが動作中にスケルチを瞬時に開くスケルチモニター機能を装備しました。

## ●20チャンネルメモリー

運用周波数のほかにオプションのトーンスケルチ機能をチャンネルごとに記憶するメモリーを20チャンネル装備しました。

## ●コールチャンネルの装備

ワンタッチで優先的に呼び出すことができるコールチャンネルを装備しました。また、コールチャンネルは任意に書き換えることができます。

## ●アウトドア運用に万全な防滴、堅牢設計

多少の水しぶきがかかっても安心な防滴構造(JIS C0920防滴Ⅱ)となっています。さらに、後面部にアルミダイキャストを採用、高い強度を実現しアウトドアでのハードな使用に対応しています。

## ●最大7Wハイパワー出力

本機の送信ファイナル部には、高能率のパワーモジュール(SC1080)を採用、オプションのバッテリーパック(BP-7)接続時に、144MHz帯ハンディー機としては最高の最大7Wのハイパワー出力を実現しています。

## ●待ち受け受信に便利なポケットピープ機能

オプションのトーンスケルチユニット(UT-40)を装着して待ち受け状態にしているとき、同じトーン周波数を含んだ信号で呼ばれると、ピープ音を発して呼び出されたことを知らせるポケットピープ機能を装備しました。

## ●パワーセーブ機能の内蔵

IC-μ2シリーズで好評を博したパワーセーブ機能を内蔵しました。これにより、待ち受け時の消費電流は10mAと抑えています。SETモードによりオートパワーセーブ機能がON/OFFでき、ポケット通信にも対応しています。

## ●オプションは従来機と共通

バッテリーパックや充電器などのオプションは、IC-2Nシリーズ、IC-02Nシリーズと共用して使用できます。

# オペレーションモードについて 2.

## 操作モードについて

本機は、いろいろな操作ができますが、基本となる操作モードは次のとおりです。

### (1)VFOモード



VFOの周波数を呼び出して運用するモードです。VFOモード時、周波数を設定することができます。V(VFO)/M(MEMORY)スイッチでVFOモードを選択します。

### (2)MEMORY(メモリー)モード



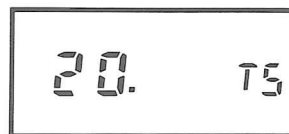
メモリーCH(チャンネル)を呼び出して運用するモードです。メモリーは、20CH内蔵しています。V(VFO)/M(MEMORY)スイッチでMEMORYモードを選択します。

### (3)CALL CHモード



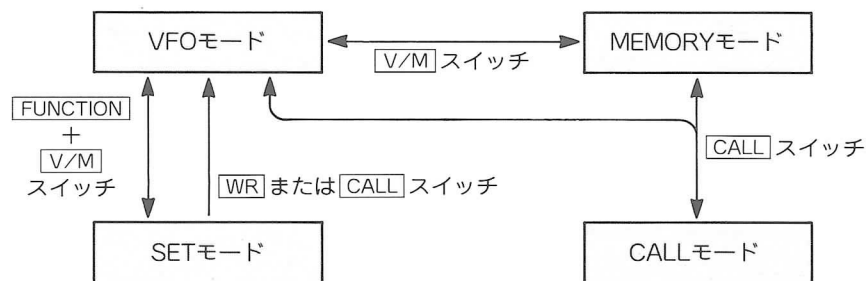
CALL CH(コールチャンネル)を呼び出して運用するモードです。バンドの呼び出し周波数が設定されています。CALLスイッチを押すとCALL CHモードになります。

### (4)SETモード



チューニングピッチ、プログラムスキャンの範囲およびオートパワーセーブのON/OFFなどを設定するときのモードです。FUNCTIONスイッチを押しながらV/Mスイッチを押すとSETモードになります。

## 操作モードのフローチャート



# 3. 各部の名称と機能

## 3-1 前面および側面操作部

■アンテナコネクタ  
付属のアンテナを接続するコネクタです。BNCコネクタを使用すれば外部アンテナも接続できます。

■SQL(スケルチ)ツマミ  
無信号時の“ザー”という雑音を消去するツマミです。スキャン機能を動作させるときも雑音の消える位置にセットしておきます。

■FUNCTION(ファンクション)スイッチ  
FUNCTIONスイッチと他の操作スイッチを組合わせた操作により、いろいろな機能を呼び出すことができます。

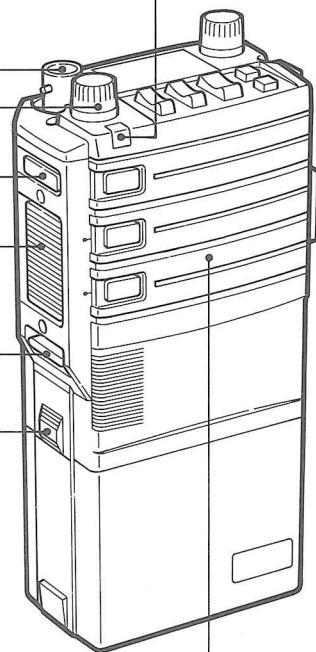
■PTT(プッシュトゥーク)スイッチ  
本機を送信状態にするスイッチです。このスイッチを押しながら本体前面部に向かって話します。

■LIGHT(ライト)スイッチ  
ディスプレイの夜間照明スイッチです。このスイッチを押すと約5秒間点灯します。点灯中に各操作スイッチの操作を行いますと、その間は点灯し、操作後約5秒で消灯します。また、点灯中にこのスイッチを押しますと消灯します。

■RELEASE(リリース)ボタン  
電池の交換など、バッテリーパックを取りはずす時に使用します。このボタンを上側に押しながら、バッテリーパックをスライドさせると、バッテリーパックが取りはずせます。

■スピーカー  
超薄型スピーカーが内蔵されています。

■送信表示LED  
送信状態で点灯します。PTTスイッチを押しても点灯しない場合は電池の交換または、充電を行ってください。



■電源/VOL(音量)ツマミ  
電源のON/OFFおよび音量調整ツマミです。時計方向に回すと電源が入り、さらに回すと受信音が大きくなります。

■CALL(コール)スイッチ  
コールチャンネルを呼び出すスイッチです。このスイッチを押すことによりディスプレイに“C”が点灯しコールチャンネルの内容が表示されます。

■EXT MIC/EXT SP端子  
オプションのスピーカーマイクロホン(HM-46L)を接続する端子です。HM-46L使用時は、内蔵のマイクとスピーカーは動作しません。また、外部スピーカー(8Ω)や外部マイクロホンも接続できます。

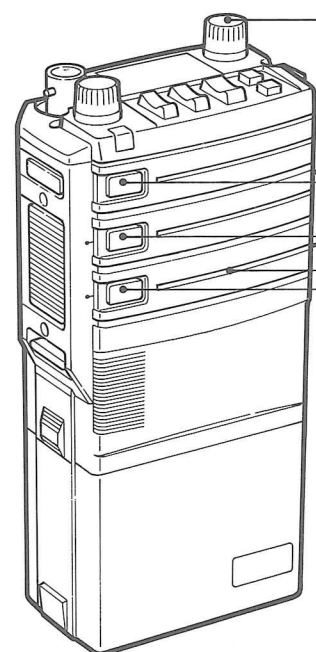
■H(HIGH)/L(LOW)スイッチ  
送信出力を切り換えるスイッチです。LOW選択時はディスプレイに[LOW]が点灯します。

FUNCTION+H/Lのとき  
FUNCTIONスイッチを押しながらH/Lスイッチを押すと周波数関係を電氣的にロック(固定)します。ロック時はディスプレイに□が点灯します。

■マイクロホン  
エレクトレットコンデンサーマイクユニットが内蔵されています。

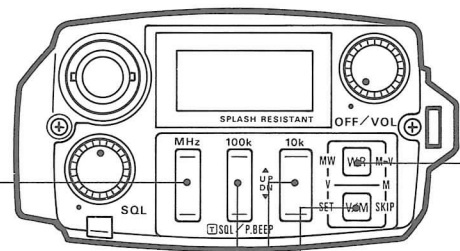
■MONI(モニター)スイッチ  
このスイッチを押すと瞬時にスケルチが開きます。ノイズスケルチ、トーンスケルチおよびポケットビーブ運用時、このスイッチを押すとスケルチが開きチャンネルをモニターすることができます。

FUNCTION+MONIのとき  
FUNCTIONスイッチを押しながらMONIスイッチを押すとビーブ音がON/OFFされます。



### 3. 各部の名称と機能

#### 3-2 上面操作部 (VFOモード時の動作)



##### ■MHz UP/DNスイッチ

1MHz台の周波数をアップまたはダウンします。0.5秒以上押し続けると連続動作となります。

##### ■100kHz UP/DNスイッチ

100kHz台の周波数をアップまたはダウンします。0.5秒以上押し続けると連続動作となります。

##### FUNCTION+100kHzのとき

オプションのトーンスケルチユニットを装着時、FUNCTIONスイッチを押しながら100kHzスイッチのDN側を押すごとにポケットピープ [SQL] → トーンスケルチ [T] [SQL] → 解除となります。

##### ■WR(ライト)スイッチ

押すことによって、VFOの内容を表示しているメモリーチャンネルに書き込みます。

##### ■V(VFO)/M(MEMORY)スイッチ

このスイッチを押すごとにVFOモードとMEMORY(メモリー)モードが切り換わります。MEMORYモードのときはディスプレイに [M] が点灯します。

##### FUNCTION+V/Mのとき

FUNCTIONスイッチを押しながらV/Mスイッチを押すと、SETモードとなります。

##### ■10kHz UP/DNスイッチ

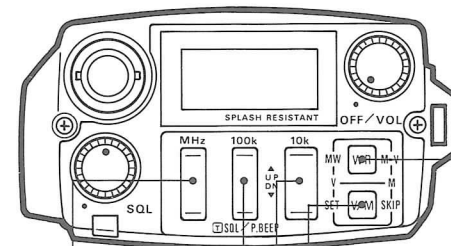
10kHz台の周波数をアップまたはダウンします。0.5秒以上押し続けると連続動作となります。

##### FUNCTION+10kHzのとき

FUNCTIONスイッチを押しながら10kHzスイッチのUP側またはDN側を押すとプログラムスキャンのアップまたはダウンスキャンを開始します。

### 各部の名称と機能 3.

#### 3-3 上面操作部 (MEMORYモード時の動作)



##### ■MHz UP/DNスイッチ

MEMORYモードでは動作しません。

##### ■100kHz UP/DNスイッチ

このスイッチのUP側またはDN側を押すとメモリーチャンネルの上位桁の“1”を表示または消灯させます。

##### FUNCTION+100kHzのとき

FUNCTIONスイッチを押しながら100kHzスイッチのDN側を押したとき、VFOモードと同様にポケットピープとトーンスケルチの切り換えとなります。

##### ■WR(ライト)スイッチ

このスイッチを押すとメモリーチャンネルの内容をVFOに転送し、同時にVFOモードに切り換えます。

##### ■V(VFO)/M(MEMORY)スイッチ

MEMORYモード時、このスイッチを押すとVFOモードになります。

##### FUNCTION+V/Mのとき

FUNCTIONスイッチを押しながらV/Mスイッチを押すごとにメモリスキャン時に必要のないメモリーチャンネルの指定 [SKIP] または解除ができます。

##### ■10kHz UP/DNスイッチ

このスイッチのUP側またはDN側を押すとメモリーチャンネルがアップまたはダウンします。

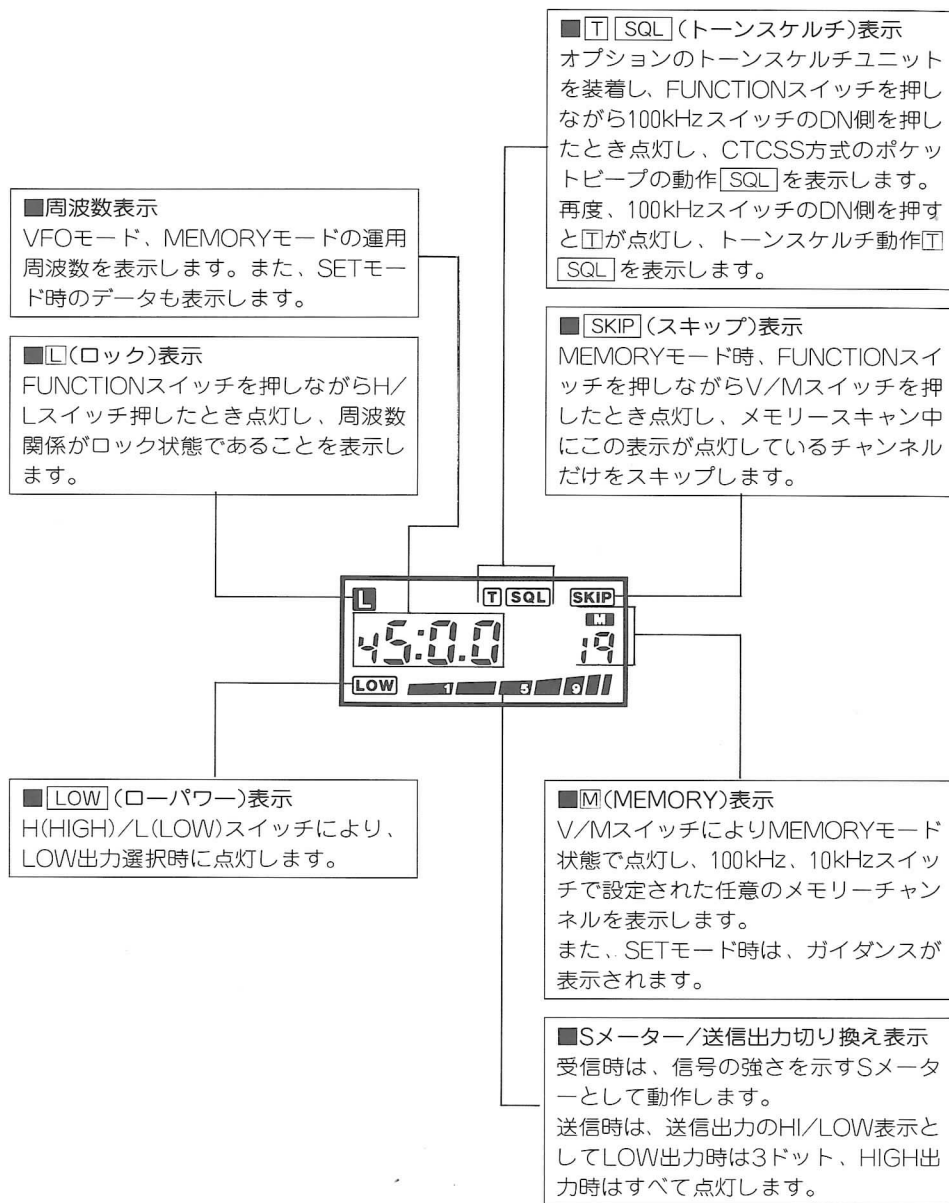
##### FUNCTION+10kHzのとき

FUNCTIONスイッチを押しながら10kHzスイッチのUP側またはDN側を押すとメモリーアップスキャンまたはダウンスキャンとなります。

### 3. 各部の名称と機能

#### 3-4 LCD(液晶)ディスプレイパネル

運用周波数やメモリー状態など、各動作状態を表示する液晶表示器です。



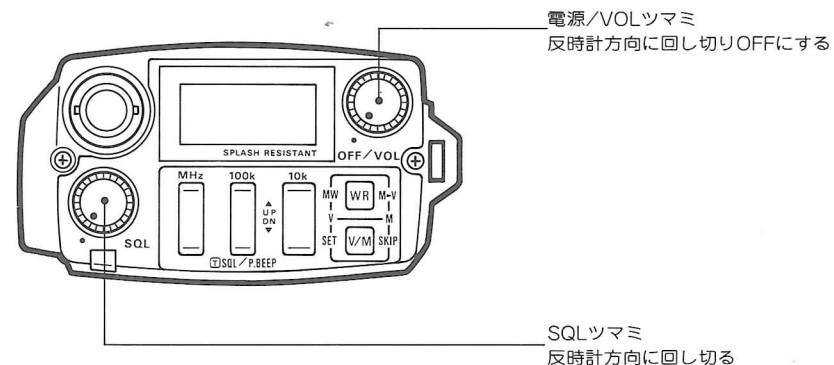
## 運用方法 4.

#### 4-1 準備

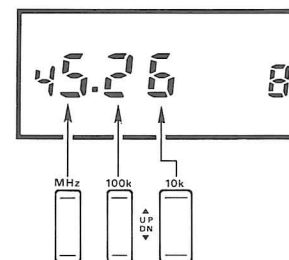
電源を入れる前に次のことを確認してください。

- ①電池は正しくセットされていますか。
- ②アンテナは正しく接続されていますか。  
外部アンテナを使用する場合は、正しく接続されているか、充分確認してください。
- ③外部スピーカーマイクをご使用の場合、正しく接続されていますか。

本機のツマミ・スイッチは、図のようにセットしてください。



#### 4-2 周波数の設定 (VFOモードで行う)



電源投入時は、電源を切る前に運用していた内容(周波数、モードなど)が記憶されていますので、その内容を表示します。

電源投入時がMEMORYモードのときは、V/Mスイッチを押し、VFOモードを設定します。次に、MHz、100kHz、10kHzスイッチで希望する運用周波数をセットします。

## 4. 運用方法

[例] 145.68MHzの設定

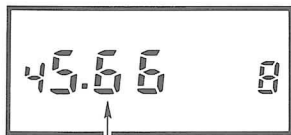
(1) MHz台のセッティング



MHz台に“5”が表示される

まず、MHzスイッチで“5”をセットします。アップまたはダウン側を押し“5”を呼び出します。なお、このスイッチは押し続けると連続動作となります。

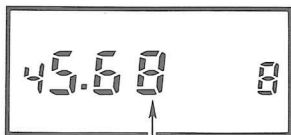
(2) 100kHz台のセッティング



100kHz台に“6”が表示される

次に、100kHzスイッチで“6”をセットします。アップまたはダウン側を押し“6”を呼び出します。なお、このスイッチは押し続けると連続動作となります。

(3) 10kHz台のセッティング



10kHz台に“8”が表示される

最後に、10kHzスイッチで“8”をセットします。アップまたはダウン側を押し“8”を呼び出します。なお、このスイッチを押し続けると連続動作となり、100kHz台への桁上げ、桁下げができます。

以上の操作で145.68MHzがセット完了です。

チューニングステップについて

10kHz台のチューニングステップは、出荷時は20kHzステップに設定されています。

なお、チューニングステップは、SETモードの項(24)ページに従って任意のステップに設定することができます。

## 4-3 受信のしかた

(1) 電源の投入



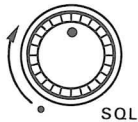
VOLツマミを時計方向に回し、電源をONにします。約2秒後ディスプレイに周波数が表示されます。

(2) VOL(音量)の調整



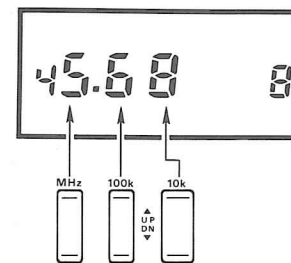
さらにVOLツマミを時計方向へゆっくりと回してゆき、適当な音量のところにセットします。

(3) SQL(スケルチ)の調整



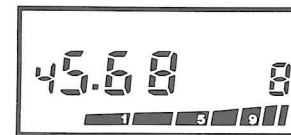
SQLツマミを時計方向に回し、“ザー”という雑音が消える位置にセットします。信号の入感がない場合、スケルチの開閉によってSメーターの1ドット目が点灯します。

(4) 周波数の設定



MHz、100kHz、10kHzスイッチで(13)ページのように運用周波数をセットします。(VFOモード時)あるいは、MEMORYモードを選択して、周波数を書き込んでいるチャンネルを呼び出します。

※メモリーチャンネルへの周波数の書き込みおよび、メモリーチャンネルの呼び出し操作については(17)ページをご覧ください。



セットした周波数で信号を受信すると、Sメーターが点灯し、スピーカーより相手局の音声が届いてきます。

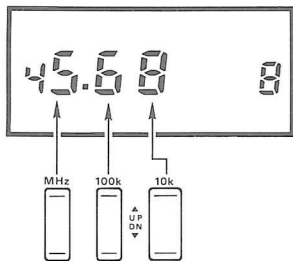
## 4. 運用方法

### 4-4 送信のしかた

#### (1)送信する前の注意

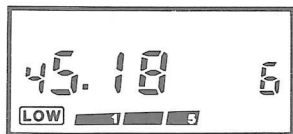
送信する前には必ず運用周波数を受信し、他局の通信に妨害を与えないように充分注意してください。

#### (2)周波数の変更



周波数をセットし直す場合、VFOモードを選択しMHz、100kHz、10kHzスイッチでセットします。

#### (3)RFパワーの設定



LOWパワー選択時

H/LスイッチでHIGHパワーまたはLOWパワーを選択します。LOWパワー選択時はディスプレイに [LOW] を表示します。

#### (4)送信の方法



PTTスイッチを押し送信状態にします。このとき、送信表示LEDが点灯し、同時に送信出力切り換え表示が点灯します。

①本機の本体前面部に向かって普通の大きさの声で話してください。マイクと口との間隔は、5～10cmが適当です。

※マイクと口との間隔が近すぎたり、あまり大きな声を出したりしますと、かえって了解度が悪くなります。

②PTTスイッチを離すことにより送信終了となり、受信状態に戻ります。

## 運用方法 4.

### 4-5 メモリーの使い方

メモリーチャンネルは0～19までの20チャンネルあり、使用ひん度の高い周波数を記憶させておく便利です。

#### (1)メモリーチャンネルの呼び出し



MEMORYモード状態

①V/MスイッチでMEMORYモードにします。

このとき、ディスプレイにMを表示します。

②100kHz、10kHzスイッチのUP側またはDN側を1回押すごとにメモリーチャンネルが順次アップまたはダウンします。また、押し続けると連続動作となります。このとき、ディスプレイにメモリーチャンネル番号と記憶している内容を表示します。

#### (2)メモリーチャンネルへの書き込み



メモリーチャンネル“2”をセット

①100kHz、10kHzスイッチで書き込むメモリーチャンネルをセットします。

[例]メモリーチャンネル“2”に下記の周波数を書き込む場合  
周波数：145.02MHz

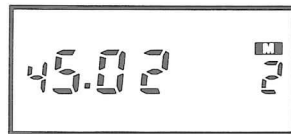


VFOモードで145.02MHzをセット

②V/MスイッチでVFOモードに戻します。

このとき、ディスプレイのM表示は消灯します。

次に、MHz、100kHz、10kHzスイッチで周波数をセットします。



MEMORYモードにすると書き込んだ内容が表示される

③WRスイッチを0.5秒以上押し続けると、ピープ音が“ピッピッ”と鳴ります。

以上でメモリーチャンネルへの書き込みは完了です。以後、MEMORYモードで書き込んだメモリーチャンネルを呼び出すだけで運用ができます。

## 4. 運用方法

### (3) メモリーチャンネルの内容をVFOに転送



メモリーチャンネルのセット



WRスイッチを押すとVFOモードに転送される

呼び出しているメモリーチャンネルの周波数をそのままVFOモードで運用する場合、下記の順序で操作してください。

①前項の「メモリーチャンネルの呼び出し」に従って、希望するメモリーチャンネルをセットします。

②WRスイッチを0.5秒以上押し続けると、ピープ音が“ピッピッ”と鳴ると共に、ディスプレイの $\square$ 表示が消灯します。

以上でメモリーチャンネルの内容がVFOに転送され、VFOモードとして運用できます。

## 運用方法 4.

### 4-6 スキャンのしかた

本機は、用途に応じて使用できる2種類のスキャン機能が装備されています。

※スキャン操作をするときは、必ずSQLツマミを雑音の消える位置にセットしておきます。

#### (1) プログラムスキャンの機能と操作

SETモードのAとbに記憶されている周波数範囲内をサーチします。

なお、SETモードのAとbには出荷時、バンドの上限と下限の周波数が設定されています。

①SETモードを呼び出し、Aとbにスキャンさせたい範囲の上限と下限の周波数を書き込んでおきます。  
SETモードの操作は(24)ページをご覧ください。

※Aとbの周波数が同一の場合は、スキャンはしません。

②V/Mスイッチを押してVFOモードにします。

③FUNCTIONスイッチを押しながら10kHzスイッチのUP側またはDN側を押すとアップまたはダウンスキャンがスタートします。

スキャン中は、デシマルポイントが点滅します。

④スキャン中に信号が受信されると、スキャン動作は一時停止します。連続信号の場合は15秒後に再スタート、途中で信号が途切れた場合は2秒後に再スタートします。

⑤スキャンの解除は、各操作スイッチを押すとスキャンはストップします。

#### プログラムスキャンの動作



※Aとbの周波数設定は高低どちらでもかまいません。

(2)メモリスキャンの機能と  
操作

20チャンネルのメモリーを順番に呼び出してサーチするメモリスキャンの他に、スキップスキャンが行えます。

## メモリスキャンの操作

20チャンネルのすべて（0～19チャンネル）をサーチします。

なお、すべてのメモリーチャンネルは出荷時、バンドの呼び出し周波数が書き込まれています。

- ①前項の「メモリーチャンネルへの書き込み」に従って、メモリーチャンネルに周波数を書き込みます。
- ②V/MスイッチでMEMORYモードにします。
- ③FUNCTIONスイッチを押しながら10kHzスイッチのUP側またはDN側を押すと、メモリーアップスキャンまたはダウンスキャンがスタートします。  
なお、スキャン中はデシマルポイントが点滅します。
- ④スキャン中に信号が受信されると、スキャン動作は一時停止します。連続信号の場合は15秒後に再スタート、途中で信号が途切れた場合は2秒後に再スタートします。
- ⑤スキャンの解除は、各操作スイッチを押すとスキャンはストップします。

## スキップスキャンの操作

メモリスキャン時、受信する必要のないメモリーチャンネル（スキップチャンネル）を飛び越してサーチします。



スキップチャンネルの指定

- ①V/MスイッチでMEMORYモードにします。
- ②前項の「メモリーチャンネルの呼び出し」に従って、スキップさせたいメモリーチャンネルをセットします。
- ③FUNCTIONスイッチを押しながらV/Mスイッチを押すとディスプレイに「SKIP」が点灯します。
- ④メモリスキャン中はそのチャンネルをスキップします。

4-7 コールチャンネルに  
ついて

コールチャンネルは、バンドの呼び出し周波数が設定されています。なお、コールチャンネルは任意に書き換えることができます。

## (1)コールチャンネルの呼び出し



コールチャンネルモード

CALLスイッチを押すと、コールチャンネルが呼び出されます。ディスプレイに「C」が表示され、設定された内容が表示されます。コールチャンネルの解除は、再度CALLスイッチを押します。

## (2)コールチャンネルの書き換え

- ①V/MスイッチでVFOモードにします。
- ②希望する周波数をMHz、100kHz、10kHzスイッチでセットします。
- ③CALLスイッチを押します。  
このとき、前に設定された内容が表示されます。
- ④WRスイッチを0.5秒以上押し続けると、ピープ音が“ピッピッ”と鳴り、コールチャンネルを書き換えることができます。

## 4-8 ピープ音について

各操作スイッチは、押すごとにピープ音がでるようになっていきます。ピープ音は4種類装備し、スイッチ操作の有効、無効を音だけで区別できます。

- 各操作スイッチが有効のとき “ピッ”
- 各操作スイッチが無効のとき “ブー”
- メモリー書き込み操作のとき “ピッピッ”
- ポケットピープ機能のとき “ピロピロピロ”  
(オプション)

なお、運用上、この音がわずらわしかったり、必要がなければ、FUNCTIONスイッチを押しながらMONIスイッチを押すとピープ音をON/OFFすることができます。ただし、ポケットピープ運用時は、ピープ音のOFF選択時も“ピロピロピロ”の連続音でしらせます。

## 4. 運用方法

### 4-9 トーンスケルチユニットについて (オプション)

本機にオプションのトーンスケルチユニット(UT-40)を装着すると、トーンスケルチおよびポケットビーブ機能の運用ができます。

特定局との待ち受け受信を行う場合に大変便利です。特に、ポケットビーブ運用時に呼び出しを受けたときは、ビーブ音(ピロピロピロの連続)で知らせますから聞きのがすことがありません。

#### (1) トーンスケルチおよびポケットビーブの設定

UT-40装着時のトーン周波数設定は、SETモードの操作(25)ページに従ってセットします。FUNCTIONスイッチを押しながら100kHzスイッチのDN側を押すとトーンスケルチとポケットビーブの切り換えができます。このとき、ディスプレイは下記のように表示します。

**[T]** **[SQL]** …… トーンスケルチ

**[SQL]** …… ポケットビーブ

#### (2) トーンスケルチ

本機にセットしたトーン周波数と同じトーン周波数の信号で呼び出しを受けたとき、スケルチが開き通話内容が聞こえますから特定局の待ち受け受信に便利です。

#### (3) ポケットビーブ

本機にセットしたトーン周波数と同じトーン周波数の信号で呼び出しを受けたとき、ビーブ音が鳴るとともに、ディスプレイの**[SQL]**が点滅します。

ビーブ音は最大30秒間鳴ります。30秒以内にPTTスイッチを押して通話を行うか上面操作スイッチを押すと、ポケットビーブは解除され通常のトーンスケルチ機能に戻ります。また、30秒が経過すればビーブ音は停止しますがディスプレイの**[SQL]**は点滅を続けますから呼び出しを受けたことを知ることができます。

#### (4) モニターについて

トーンスケルチおよびポケットビーブ状態で、そのチャンネルの運用状態をチェックするにはMONIスイッチを押すとスケルチが開きそのチャンネルをモニターすることができます。

## SETモード 5.

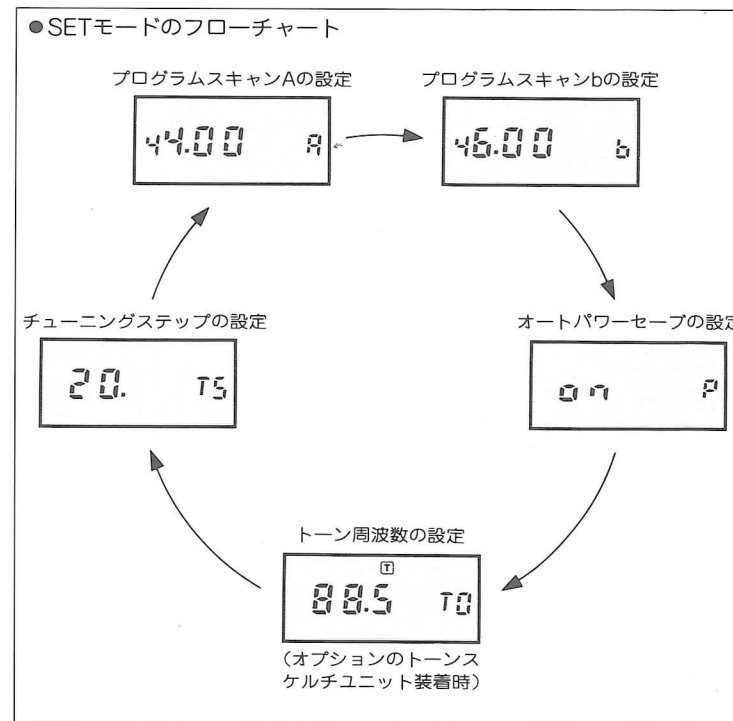
### SETモードの操作手順

VFOモード選択時にFUNCTIONスイッチを押しながらV/Mスイッチを押すとSETモードになります。

SETモード時にV/Mスイッチを押すと、下記のようにガイダンスが点滅します。

ガイダンスの内容をセットしたのち、または、セットする必要がなければ再度V/Mスイッチを押すと、次のガイダンスが点滅します。

なお、SETモードの解除は、WRまたはCALLスイッチを押します。



**解除**  
WRまたはCALL  
スイッチを押す

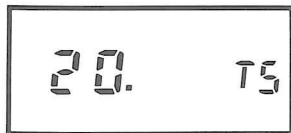
**SETモードの指定**  
FUNCTION+V/M  
スイッチを押す

45.02 2

VFOモード

## 5-1 TS(チューニングステップ)の設定

周波数設定時のチューニングステップを下記のように任意にセットすることができます。  
出荷時は20kHzステップに設定されています。



チューニングステップのセット

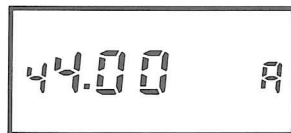
- ①本機をSETモードにします。次にV/Mスイッチを押し、“TS”を点滅させます。
- ②10 kHzスイッチのUP側またはDN側を押し、チューニングステップをセットします。  
チューニングステップは標準で5, 10, 15, 20, 25kHzステップが選択できます。また、SUB側として12.5, 25kHzステップが選択できます。

※SUB側を選択する時は、LIGHTスイッチを押しながらWRスイッチを押し、電源をOFFにし再度ONにします。  
次にSETモードにすると、12.5, 25kHzステップとなります。なお、SUB側より標準に戻す場合は、リセットについて(28)ページに従ってリセット操作を行ってください。

ご注意  
SUB操作およびリセット操作を行った場合はメモリーチャンネルの内容が消去されます。

## 5-2 A/b(プログラムスキャン範囲)の設定

プログラムスキャンの上限と下限の周波数がセットできます。  
出荷時はバンドの上限と下限の周波数がセットされていますので、スキャン動作としてはフルスキャンになります。



プログラムスキャンAのセット

- ①本機をSETモードにします。次にV/Mスイッチを押し、“A”を点滅させます。
- ②MHz、100kHz、10kHzスイッチで、希望の上限または下限周波数をセットします。  
周波数の設定方法は(13)ページをご覧ください。

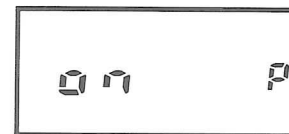


プログラムスキャンbのセット

- ③再度、V/Mスイッチを押し、“b”を点滅させます。
- ④MHz、100kHz、10kHzスイッチで、希望の下限または上限周波数をセットします。

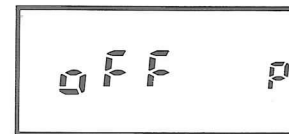
## 5-3 オートパワーセーブの設定

受信待ち受け時の消費電流を節約するオートパワーセーブをON/OFFすることができます。  
オートパワーセーブON時の待ち受け消費電流は10mAに抑えています。  
※パケット通信を行う場合は、オートパワーセーブをOFFにしてください。



オートパワーセーブONのセット

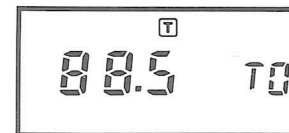
- ①本機をSETモードにします。次にV/Mスイッチを押し、“P”を点滅させます。
- ②10kHzスイッチのUP側またはDN側を押し、オートパワーセーブのON/OFFをセットします。



オートパワーセーブOFFのセット

## 5-4 TO(トーン周波数)の設定(オプション)

オプションのトーンスケルユニット(UT-40)装着時、トーンスケルチまたはポケットピープ運用を行う際のトーン周波数をセットすることができます。  
UT-40はCTCSSのプログラマブルトーンエンコーダー・デコーダーで37通りのトーン周波数が使用できます。



トーン周波数のセット

- ①本機をSETモードにします。次にV/Mスイッチを押し、“TO”を点滅させます。
- ②10kHzスイッチのUP側またはDN側を押し、希望するトーン周波数にセットします。

## 6. バッテリーパックについて

### 6-1 乾電池について

#### (1) 乾電池の交換時期

電池の電圧が低下しますと、送信出力が減少したり、本機の性能を十分に発揮させることができません。PTTスイッチを押したとき、送信表示LEDが点灯しない場合は、電池の容量が低下しかけていますが、しばらくは使用可能です。電池の交換時は、全数とも新しい電池と交換してください。古い電池と混用すると使用時間が短くなります。

#### (2) 電池の寿命を長く保つためには

- 近距離交信時はLOWパワーにする。
- 送信時間をできるだけ短くする。
- 受信音量を小さくする。
- 使用しないときは電源を切っておく。
- 連続使用をさける。

※上記のご注意は、NiCd電池(オプション)の場合も同じです。

#### (3) 乾電池の使用上のご注意

乾電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。

通常、乾電池の使用可能な温度の下限は、 $-10^{\circ}\text{C}$ とされていますから、寒冷地でご使用になる場合は、電池部分を暖かくして(充分保温する)ご使用になるか、ニッカド電池のご使用をおすすめします。

なお、本機は高出力タイプですから、なるべく高容量のアルカリ電池のご使用をおすすめします。

本機は高出力タイプですから、なるべく高容量のアルカリ電池またはNiCdバッテリーパック(オプション)のご使用をおすすめします。

## バッテリーパックについて 6.

### 6-2 NiCd電池について(オプション)

本機には、オプションのNiCdバッテリーパックが使用できます。

BP-2, BP-3, BP-5, BP-7, BP-8, BP-70などの種類がありますのでご利用ください。

オプションのNiCdバッテリーパックは、IC-2NやIC-02Nシリーズ機と共用です。

NiCdバッテリーパックの取り扱いについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

#### NiCd電池の運用時間

本機で1分間送信、1分間受信、8分間待受け状態を繰り返した場合の消費時間は、表のようになっています。

表の消費時間は、HIGHパワーで送信したものです。近距離と交信するときは、LOWパワーにすれば運用時間を延長することができます。

	電 圧 [V]	容 量 [mAh]	電池消費時間 [h] (注)
BP-2	7.2	450	約3.8
BP-3	8.4	270	約2.0
BP-5	10.8	450	約2.4
BP-7	13.2	450	約2.5
BP-8	8.4	800	約5.9
BP-70	13.2	270	約1.5

(注) 時間は目安です。条件によっては、表示した時間で使用できないことがあります。

■NiCdバッテリーパックには、専用の充電器も各種発売しておりますので、併せてご利用ください。

## 7. 保守

### 7-1 リセットについて

本機を運用中にCPUの誤動作や静電気などの外部要因で、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、一旦電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。

それでも異常があれば、下記のようにリセット操作を行ってください。

- ①電源をONにします。
- ②FUNCTIONスイッチとLIGHTスイッチを押し続けます。
- ③電源をOFFにし、再度電源をONにします。
- ④約2秒後にディスプレイの全てのセグメントが点灯します。
- ⑤約2秒後に145.00MHzが表示されます。
- ⑥FUNCTIONスイッチとLIGHTスイッチをOFFにします。

※以上でリセット操作は完了です。

なお、リセット操作を行った場合は、メモリーチャンネルの内容がすべて消えますので、再度運用に必要な周波数などを書き込んでください。

### 7-2 バックアップ電池について

本機には、電源を切ってもメモリーの内容が消えないように、メモリーバックアップ用のリチウム電池が内蔵されています。

リチウム電池の寿命は、使用条件により多少異なりますが約5年です。

リチウム電池が消耗しますと、ディスプレイの表示がおかしくなったり、メモリーの内容が消えてしまいます。リチウム電池の交換は、必ずお買い求めいただいた販売店または、もよりの弊社サービスステーションで行ってください。



# 11. 定格

## 1. 一般仕様

- 周波数範囲 144~146MHz
- 電波型式 F3(FM)
- メモリーチャンネル数 20+コールチャンネル
- アンテナインピーダンス 50 $\Omega$
- 電源電圧 DC5.5~16V(標準電圧9.0V)
- 接地方式 マイナス接地
- 消費電流 受信パワーセーブ時 10mA  
受信最大出力時 250mA  
送信HIGH(13.2V) 1.8A  
LOW 0.9A
- 使用温度範囲 -10~+60 $^{\circ}$ C
- 周波数安定度  $\pm 15$ ppm(-10~+60 $^{\circ}$ C)
- 外形寸法 65(W) $\times$ 140(H) $\times$ 35(D)mm (突起部含まず)
- 重量 約450g

## 2. 送信部

- 送信出力 HIGH(13.2V) 7W  
LOW 1W
- 変調方式 リアクタンス変調
- 最大周波数偏移  $\pm 5$ kHz
- スプリアス発射強度 -60dB以下
- マイクロホンインピーダンス 2k $\Omega$

## 3. 受信部

- 受信方式 ダブルスーパーヘテロダイン
- 中間周波数 第1 16.9MHz  
第2 455kHz
- 感度 12dB SINAD -12dB $\mu$ (0.25 $\mu$ V)以下
- スケルチ感度 -20dB(0.1 $\mu$ V)以下
- 選択度 15kHz(-6dB)以下  
30kHz(-60dB)以上
- スプリアス妨害比 60dB以上
- 低周波出力 0.4W以上(8 $\Omega$  10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス 8 $\Omega$

「測定法はJAIAで定めた測定法による」

※定格は改良のため予告なく変更することがあります。